

生活支援体制づくり協議体（市域）開催報告書

1 開催日時	令和6年10月8日（火） 10時00分 ～ 11時30分
2 開催場所	福祉交流センター 特別会議室
3 参加者	委員 7 名、高齢者福祉課 4 名、事務局 2 名、第 2 層生活支援コーディネーター1 名 合計：14 名
4 協議の内容	1. 開会 2. 自己紹介 3. 会長及び副会長の選任 互選にて正副会長を選任。 4. 振り返り 配布資料に基づき第 1 層 SC より報告。 【意見・質問など】 特になし。 5. 協議事項 ①第 2 層協議体における事業状況について 配布資料に基づき第 1 層 SC より報告。 【意見・質問など】 特になし。 6. 情報提供 第 2 層 SC より資料に基づき、さぎの宮圏域協議体で活用している Google マイマップ、jSTATMAP の活用法について説明。 ※Google マイマップ：Google 社が提供するオンライン地図サービス（Google マップ）の機能の一つ。 ※jSTATMAP：総務省統計局が提供する地域分析のためのオンラインサービス。「地図で見る統計」という別名があり、国が公表している統計データを地図に反映して表示することができる。 【意見・質問など】 意見：2 つのマップの特性を活かしながら、協議を深めている点がとても良い。 質問：マップ作成にどのくらいの時間を要したか。 回答：〈第 2 層 SC〉 Google マイマップは以前から社会資源の入力をしていたので、移動スーパーなど新たな資源をその都度追加している。さぎの宮圏域協議体で使用するまでにデータの整理など約 1 週間程度の時間を要した。 Google マイマップの進捗状況や、地域の社会資源の数によって要する時間は違う。jSTATMAP は Google マイマップのデータを反映させることができるので、特に何かの作業が発生するものではない。

質問：マップの更新は誰でもできるものか。

回答：〈第2層 SC〉

ログインすれば誰でも可能。現在は複数人の職員で更新をしている。

意見：良い事例だと感じる。市内のマップを見ることができれば、さらに活用ができるように思う。

回答：Google マイマップの注意点として、公会堂やバス停など分けて登録が可能。しかし、登録できる数が10個までと制限があり、有料サービスもないため、それ以上登録数を増やすことができない。

意見：ソーシャルワーカーとして地域支援を行う際、地域を理解するプロセス（地域アセスメント）が重要。専門職だけで情報を共有していくことも必要だが、生活支援体制整備事業の協議体という場で、住民と地域の実態を共有しながら共に地域について検討していくことに意味があり、可視化することによって資料としての価値が上がる。自治会や民生委員の持っている地域の情報、知識をマップやデータの活用により裏付けする。

その上で、あらためて地域に必要な資源は何かの議論が可能になる。

意見：協議内容について他地域での取組みをそのままもってきて議論しても上手くいかない。地域にあるニーズを住民に気づいてもらうために、可視化することがニーズの根拠の明確化につながる。このマップはそのきっかけになる。さらに、各圏域のSCが使いこなせるようになっていくことが次の課題になる。

質問：マップ作成にあたり、地域包括支援センターと情報交換を行ったとある。具体的にどんなことを行ったか。

回答：〈第2層 SC〉

地域包括支援センターとして把握している情報があるか、こちらのマップに反映できているか確認した。また、不足している社会資源やどんな相談が地域に多いかを共有し、地域ニーズの分析に活用した。

意見：マップで見ると分かるが、決して便利な場所を選んで生活している人ばかりではない。必ずしも社会資源が多くある場所が生活しやすい場ではなく、社会資源があるからこそ挙がってくる課題もある。（騒音の問題等）

意見：先ほどのような地域住民だからこそ知っている情報はとても大切。長く生活しているからこそ分かる住民感覚など、ソフトな情報もマップに落とし込んでいければ、なお良い。さらに、ハザードマップなども落とし込み、災害時要援護者が分かるなどの使い方もできるかもしれない。

意見：Google マイマップだけでなく、jSTATMAPを組み合わせることに意味がある。紙の地図を使用していることが多いが、高齢者の行動範囲がどこまでになるのか見えづらいことが多い。実際に、移動スーパーを誘致してみたが、利用者が少なく撤退してしまう事例も多い。このマップを活用すれば、より課題の明確化ができ、支援を行う根拠になり得る。

質問：Google マイマップ、JSTATMAP は利用料金がかかるのか。

回答：〈第2層 SC〉

それぞれアカウントがあれば、無料で利用できる。

意見：このマップが市域全体に広がれば、市内ではこういった状況になっているのか確認したうえで何が必要なのかを探っていかなければいけないと感じる。地域にはそれぞれたくさんの資源がある。サービスや資源を他から持ち込んでもいいが、まずは、そこで生活している地域住民がお互いにやることをやる、助け合う地域になることが望ましい。

意見：地図にはたくさんの情報がはいっている。次のステップになるのが、その情報から今地域で取り組むべきことは何かを明らかにしていくことだと感じる。

意見：情報を集め、落とし込んだ後、その情報をどう扱うかが大切。
行政の関連部署、大学などの様々な機関と連携をしていくことも考えられる。

意見：〈第1層 SC〉

いただいた意見や活用方法を第2層 SC に共有し、各地域で活用をしていく。今後も第2層 SC より状況報告を行い、第1層で協議をすすめていきたい。

5 今後の見通し・ 必要な対応

第2層協議体での状況把握を行い、第1層協議体で情報共有を行う。
合わせて、第2層SCに好事例を共有し、他地区でも実施できるように共有する。